

01

02

Title

各実行委員会（組織）の取組み

03

04

05

06

07

08

国有林における森林環境教育の推進



国民の森林・国有林
林野庁

森林で遊んで、学び、楽しむ「遊々の森」

「遊々の森」は、学校などが森林管理署と協定を結ぶことにより、さまざまな体験活動や学習活動を行うフィールドとして国有林野を継続的に利用できるようにする制度です。

森林管理署が予め選定した区域に応募して頂くことや、利用を希望する学校などと森林管理署が相談ことで「遊々の森」の箇所を決めて協定を結び、学校教育における「社会」や「総合的な学習の時間」などで、森林内での活動を通じた子どもたちの人格形成や、幅広い知識の習得を行う森林環境教育(森林での遊び、森林学習、林業体験など)の場として利用できます。



森林での遊び



森林学習



林業体験

森林・林業体験交流促進対策

森林・林業体験活動の場としてふさわしい豊かな森林環境を有し、近隣の農山漁村における体験活動とも連携が図られる国有林野において、多様な主体との連携により森林環境教育の一層の推進を図るため、平成21年度から「森林・林業体験交流促進対策」を開始し、平成22年度は12地域で行っています。

全国の森林管理局・署において、学習・体験のプログラムやフィールドの整備、団体等への情報提供に取り組んでいます。



学習・体験プログラム実施例



森林管理局	実施地域
北海道	北海道斜里町、北海道大樹町※
東北	岩手県葛巻町※
関東	新潟県妙高市※
中部	長野県長野市、長野県飯山市※
近畿中国	福井県あわら市、三重県伊賀市
四国	香川県丸亀市ほか、高知県高知市ほか 高知県四万十市ほか※
九州	熊本県熊本市

※「子ども農山漁村交流プロジェクト」の受入モデル地域

【お問い合わせ先】

- ①北海道森林管理局指導普及課
TEL011(622)5245
<http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/>
- ②東北森林管理局指導普及課
TEL018(836)2214
<http://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/>
- ③関東森林管理局指導普及課
TEL027(210)1175
<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/>
- ④中部森林管理局指導普及課
TEL026(236)2636
<http://www.rinya.maff.go.jp/chubu/>
- ⑤近畿中国森林管理局指導普及課
TEL050(3160)6753
<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>
- ⑥四国森林管理局指導普及課
TEL088(821)2121
<http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>
- ⑦九州森林管理局指導普及課
TEL096(328)3593
<http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/>
- ⑧林野庁国有林野総合利用推進室
TEL03(3503)2038
http://www.rinya.maff.go.jp/j/kokuyu_rinya/



東北森林管理局における森林環境教育の取組

東北森林管理局では、世界自然遺産の白神山地や日本三大美林である「秋田スギ」「青森ヒバ」など豊富な自然に恵まれている特色を活かして、自然豊かな森林や木とのふれあいの機会を提供し、子供から大人まで幅広く森林や林業に対して国民の理解をいただくため、「遊々の森」をはじめとする国有林をフィールドにして様々な森林環境教育に積極的に取り組んでいます。

特に、教育機関からは「総合的な学習の時間」の導入により、子供たちの「生きる力」を育む体験学習の場として森林が広く活用されることが期待されていることから、子供たちを対象にした森林環境教育では、ネイチャーゲーム等森林での遊び、植生調査や野生動植物の観察等の森林学習、植林や枝打ち等の林業体験など森や木のすばらしさを実感していただき、森林を身近に感じてもらえるよう各地域の特色を活かし、NPOやボランティア等のみなさんとの協働による取組を進めています。



自然観察会



遊々の森

「東北の森林と遊ぼう」の作成・配布

平成21年には、森林環境教育において子供たちに森林・林業について楽しく学んでもらい、森林について理解を深めてもらうことを目的に、社会科の副読本「東北の森林と遊ぼう」を作成して管内（福島県を除く東北5県）の全ての小学校に配布しました。



「東北の森林と遊ぼう」は、小学五年生の社会科の教科書に森林・林業についての記述があることから、小学校高学年を対象として、東北地方の特色を反映し、イラストや写真を使用したわかりやすい冊子となるよう工夫し、「1 森林のすがた」、「2 森林のはたらき」、「3 森林は地球を守る」、「4 国民参加の森林づくり」、「5 森林を育てよう」、「6 森林をつくろう」、「7 森林を守ろう」、「8 木材を使う」の八項目で構成しています。また、森林環境教育を進める際の狙いや指導のポイントを記述し、森林環境教育を行う方々にも森林・林業についてわかりやすく説明できるように解説編も作成し配布したところです。





財団法人 オイスカ

オイスカは1961年に日本で創立され、主にアジア・太平洋地域を中心に、農業などを通じた人材育成や、持続可能な地域開発、植林などの環境保全活動を展開し、来年2011年で創立50周年を迎えます。1993年には世界のNGOを代表して地球サミット賞を受賞。95年には国連経済社会理事会最高諮問資格を取得致しました。

活動としては、特に開発途上国の青少年の育成に力を入れ、海外では11カ国15カ所の研修センターにて約900名、日本国内では4カ所で約300名の農業などの研修を行い、研修を修了した各国の数万人におよぶ研修OBは、各界にて活躍しており、地域の農業技術の普及に携わる人も大勢います。

また、海外版学校林活動とも言える「子供の森」計画は、91年の開始以来、26の国と地域、4,166校にて実施されております。子どもたち自身が、学校の敷地や隣接地で苗木を植え育てていく実践活動を通じて「自然を愛する心」「緑を大切にする気持ち」を養いながら、地球の緑化を進めています。

また、日本国内でも森林保全活動(09年度18県32カ所で実施)や、間伐材を利用して行う「森のつみ木広場」(09年度19県108カ所で開催)などを実施しております。*2010年3月末現在のデータです。



学校林活動への取り組み

現在、約3000の小・中・高校が保有している学校林は、森林がもたらす教育的効果を十分に得られる最適なフィールドとして見直されつつあります。しかし、いざ学校林を活用しようとしても、森林に関する知識や荒れ果てた学校林を整備するための資金がない、誰に何を相談すればよいか分からない、などの問題を抱えている学校が多いのが現状です。

オイスカは2000年より子どもたちが里山で自然に親しめる環境づくり、および学校教育における森林活用を推進するために学校林保全活動を始め、企業や国土緑化推進機構などの助成団体の支援を受けながら、林野庁や地元自治体、林業関係者、地元の方々と学校を結ぶ調整役として活動を展開してきました。10年目を迎えた現在では、山梨、東京、神奈川、長野、静岡、岐阜、愛知、大阪、兵庫、富山、青森にある合計21校の小・中学校において、教育現場での体験学習が安定的に継続できるように、森林整備とともに、各学校に「学校林保全委員会」などの組織立ち上げのサポートなどを行っています。各学校林に関係する方々が協働することによって、地域全体の「ふるさと」として学校林を守り、育んでいけるよう活動を進めていきます。



●お問い合わせ・連絡先

〒168-0063 東京都杉並区和泉3-6-12
財団法人オイスカ 啓発普及部
Tel 03-3322-5161 / Fax 03-3324-7111
E-mail oisca@oisca.org
URL <http://www.oisca.org/>
多くの支援者が必要です。会員募集中！



社団法人秋田県緑化推進委員会の取り組み

当委員会は、“荒れた県土に緑の晴れ着を、を合言葉に、昭和25年、県内の各界各層を結集し、県土緑化運動推進の中核団体として発足しました。

その後、昭和46年社団法人として組織を再編強化、平成7年緑の募金法指定団体、さらに平成9年特定公益増進法人の認可など着実な体制強化が図られ今日に至っています。

現在の会員数は、正会員として県内全市町村25会員、賛助会員として企業団体など70会員、計95会員となっています。特に近年は、森林のCO₂吸収源対策を緑化運動の取り組みとして幅広く啓発していることから、森林・林業界の枠を超えた企業団体の賛助会員加入が増えてきております。

県土緑化運動推進の軸は、当初より①緑化思想の普及啓発、②森林の再生、③環境の緑化の推進に要約されますが、具体的な取り組みについては、その時々時代の背景等を踏まえ、対策をリニューアルしながら、メリハリのある展開を図っています。

当委員会運営の主たる財源は、緑の羽根をシンボルとする「緑の募金」に依存していることから、緑化運動と募金運動の双方を不可分の両輪として、相乗効果を高める取り組みが重要となっております。

【緑の募金街頭キャンペーン】



開始式



募金活動

【緑の少年団交流集会】



ポイントラリー



キャンプファイヤー

個別事業の取り組みとしては、①森林祭、グリーンキャンペーン等のイベント開催、②緑の少年団、森林ボランティア等の人材育成、③森づくり活動団体等への支援助成、④緑化関係表彰、広報活動等となっていますが、それぞれ実施に当たっては、行政、企業団体等関係者との密接な連携、協力のもと、その展開に努めております。

今後の社会経済を展望するとき、森林は環境問題や資源問題と深い関わりを持つようになることが確実なことから、この森林を社会全体で支えることの必要性が高まっていく中で、緑化運動の果たすべき役割はますます重要となっております。

また、近年の「新しい公共」としての寄付文化やボランティア社会の実現と定着といった方向は、かねて当委員会が取り組んできた運動の方向でもあり、さらに企業等における社会貢献を森林の元気を取り戻す活動に結びつける体制の充実など、緑化運動を一大県民運動として進化させるよう、課題と期待に応えて参りたいと存じます。

【ワークショップ】



積み木広場

【水と緑の森林祭】



緑の募金・花苗プレゼント

●お問い合わせ・連絡先

〒010-0951 秋田市山王五丁目7-6
社団法人秋田県緑化推進委員会
TEL. 018-883-0815
FAX. 018-883-0816
E-mail: akiryoku@estate.ocn.ne.jp

社団法人全国森林レクリエーション協会秋田支部

当協会は、森林の総合的・レクリエーション的利用の推進を図り林業経営の活性化や地域の振興・発展に寄与するとともに、森林環境教育の推進等を通じて森林・林業や山村に対する国民の理解の増進に取り組んでおります。

事業活動は、森林レクリエーション利用に関する調査研究、森林レクリエーション利用に関する普及啓もうや、情報の収集・提供、森林環境教育の推進、資格認定事業などを実施しております。

普及啓もう活動としては、森林レクリエーション利用に関する情報誌として「森林レクリエーション」を毎月発行しております。

森林環境教育の推進事業では健康に関する情報を含め森林療法の概要などの取組情報を提供しております。また、森林環境教育の推進を図



るため、森林環境教育に関する普及啓発活動、活動プログラム・教材作成にも取り組んでおります。

資格認定事業としては、「子ども樹木博士」の認定があり、樹木の名前を覚えながら森林内の散策、テストを行い、その結果正解数によって10級～3級までの「子ども樹木博士」の認定証を授与します。



森林インストラクター資格認定については、森林・林業に関する国民の理解の増進、山村地域におけるレクリエーション的資源の利活用を通じた地域振興等に資するとともに、森林環境教育の必要性に対応するため「森林インストラクター」の資格試験、養成講習等を実施しております。また、子どもたちだけ

でなく一般の方々の森林・自然への関心も高まってきていることから森林の案内人「森林活動ガイド」の要請にも取り組んでおります

これらに関心のある方はご連絡下さい。



森林環境教育の一環として、森林レクリエーション地域の美化活動を推進するため地域のボランティア団体や小学校～大学などで森林や公園などの美化活動を行っている団体を対象に「森林レクリエーション地域美化活動コンクール」を実施しております。

また、自然に親しみながら楽しむため一般公募によりスキーツアーなども実施しております。これまで月山スキー場の春スキー、森吉山の樹氷鑑賞会などを実施しました。



山形県月山スキー場での春スキー

●お問い合わせ・連絡先

〒010-0001 秋田市中通6丁目7-9
財団法人日本森林林業振興会秋田支部内
TEL 018-832-4040
FAX 018-835-6837
E-mail:jffakita@center-green.or.jp

秋田県森林インストラクター会の活動

当会は、秋田県在住の（社）全国森林レクリエーション協会認定の森林インストラクター資格所有者有志で構成されています。

森林インストラクターとは、自然環境教育を目指す森の案内人です。私たちは、自然と森林のしくみ、森林づくりと林業、野外での活動、教育の方法、安全対策のすべてについて一定レベルの知識を持っており、森を訪れる皆さんが、心地よく過ごし、楽しみ、感じ、自然を深く知ることができるよう、さまざまな活動を通してお手伝いをしています。

これまでの主な活動としては、

1. 白神山地世界自然遺産地域の巡視員に3名がボランティア活動。
2. 東北森林管理局『秋田市仁別国民の森』の『仁別森林博物館』でのボランティア案内人として5月から11月まで2名派遣し、森林環境教育を展開。
3. 秋田市太平山自然学習センター『まんたらめ』にて講師として小学生へ指導。
4. 秋田県森林学習交流館『プラザクリプトン』の「森の学校」を年2回開催。
5. 3年間で60名養成した秋田県森の案内人養成講習会にて講師として指導。
6. 第59回全国植樹祭に植樹ボランティアとして参加。
7. 森林環境教育の指導マニュアルの検討を実施。などを行ってきました。



森の学校の様子

平成17年には、森林インストラクターの全国研修会を能代市、八峰町、藤里町を主会場として開催しております。この研修会には、北海道から福岡県まで全国から45名の参加者がありました。白神のブナ林や天然秋田スギ林という、全国でも稀な秋田の森林の豊かさを改めて感じる事ができました。

また、年2回程度、会員の資質向上のため、県内各地で現地研修会を実施しています。これまで、秋田市仁別や、能代市二ツ井町の七座山、八峰町の留山、森吉山、田沢湖周辺、象潟の中島岱、湯沢市小安峡温泉の女滝沢などで行いました。そのほか、講師を依頼し、森林病虫害防除の実態や森林昆虫について講習会も開催しています。

森林インストラクターと一緒に森へ行きたい、プログラム作りをしたい、イベントをしたい、と思ったら、気軽にご相談ください。



森の学校での記念写真

●お問い合わせ・連絡先

〒010-8570 秋田市山王四丁目1-1
秋田県農林水産部 農林政策課 真崎
TEL 018-865-1724 FAX 018-860-3842

秋田県森の案内人協議会

森に遊び・森に学ぶ

会の設立概念

山村の活力が低下傾向にある一方で、都市においては環境の悪化など諸問題を抱え、環境や生活・文化などの源泉としての森林や山村への期待が高まりつつある。このような背景のもとで、多様で豊かな森林と快適な環境づくり、森林資源・空間の活用による地域づくりを促進するには林業者はもとより、多くの人々が森林に親しむことを通じ、森林や林業について理解を深めることが緊要である。このため、秋田県は平成8年から3年計画で、森林・林業体験や学習活動を支援する指導的人材として「森の案内人」の育成を図り、これを認定した。

秋田県全域を活動エリアとし、組織的に機能するため認定を受けた全員を持って協議会を設立した。



ボランティアによる
スギの除間伐作業体験

【活動の概要】

- ★各種団体の行う緑化等事業
秋田県森林学習交流館(プラザクリプトン)
- ★山・川・海の保全・再生事業
河岸・海岸クリーンアップ、植林、枝打ち、間伐、地域歳時記・山村の歴史と文化等
- ★緑のパートナー事業
里山の広葉樹林“すくすくの森”を、パートナーとの様々な森林活動を通じた、多様な森づくりの推進
- ★森と木に親しむ集い事業
巨樹巨木探索活動、特殊教育学校森林体験
- ★水と緑の森づくり事業
森林遊学講座、学習の森・野鳥の森整備等

【森林はもっと楽しく!! もっと体験!!】

たくさんの生物は森林から恵みを受けています。そして森林は心のふるさとでもあります。「森の案内人」と一緒に森林に入り、リフレッシュしながら森林についての知識を深めることで森林がもっと身近に感じられ、色々なことが楽しく体験できることでしょう。



間伐したスギの
葉で“スギッチ”
を製作する

【たとえば、こんな楽しい体験。】

- ☆自然観察……昆虫・野鳥・森林動植物
高山植物・山野草・樹木等
- ☆森遊び……オリエンテーリング・キャンプネイチャーゲーム・伝承遊び等



炭焼き体験!
白炭の窯だしに
挑戦する

- ☆クラフト&体験……林業体験・木工クラフト炭焼き体験・登山・山菜採りやキノコ狩り等
- ☆森を学ぶ……森林 林業の知識・森林の成り立ち
環八郎湖再生支援等

※皆さんの活動目的に合わせて、その分野の得意な「森の案内人」を派遣します。

☆お問い合わせ・連絡先

〒010-1343 秋田市雄和繋字脇ノ沢90
秋田県森の案内人協議会
Tel・Fax018-887-2909

01

02

Title

協賛企業の取組み

03

04

05

06

07

08

一般財団法人セブン-イレブン記念財団の活動

セブン-イレブンみどりの基金
一般財団法人セブン-イレブン記念財団



一般財団法人 セブン-イレブン記念財団

理事長 山本 憲司
(セブン-イレブン豊洲店オーナー)

セブン-イレブン記念財団(みどりの基金)は、株式会社セブン-イレブン・ジャパンの創立20周年記念事業として、セブン-イレブン加盟店と本部が一体となって環境をテーマに社会貢献活動に取り組むことを目的に、1993年11月設立されました。

セブン-イレブン店頭でお客様からお預かりした募金と、株式会社セブン-イレブン・ジャパンからの寄付金をもとに、公募助成を通じた環境市民団体への支援により、自然環境保護・保全、環境美化、災害復元の支援と体験型環境学習への支援に力を入れています。

また、美しい日本の四季を彩る花や木々を大切に、災害で失った自然を復元する活動に支援することで、次世代に引継ぐ環境を守ることを主旨

として、2006年から実施している「支笏湖周辺台風災害・復興の森づくり」への支援に続き、2008年からは、噴火災害の復元活動として、「三宅島緑化プロジェクト」に取り組んでいます。

2010年2月に東京都と協定を締結した、「東京の緑を守ろうプロジェクト」にも支援を開始いたします。

セブン-イレブン記念財団では、これからも環境市民団体、セブン-イレブン加盟店及びセブン-イレブン本部と力を合わせて、活動内容の充実を図り、地域に根ざした社会貢献活動を展開してまいります。

皆様のさらなるご支援とご協力を心よりお願い申し上げます。



三宅島緑化プロジェクトの植樹活動



環境先進国ドイツで海外研修
(森の幼稚園)

九重ふるさと自然学校

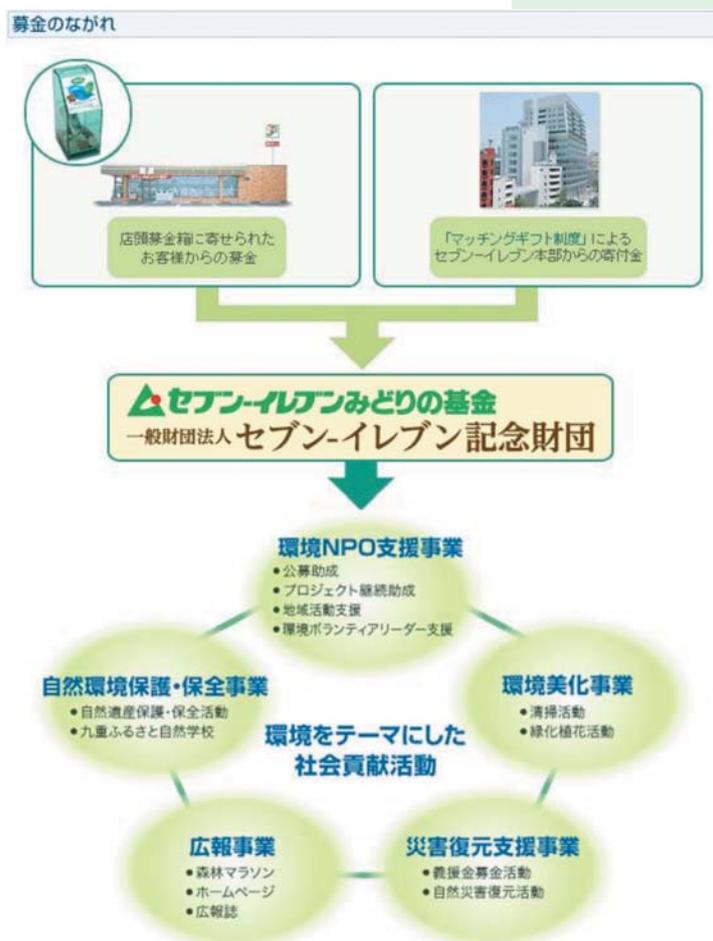
セブン-イレブン記念財団が大分県九重町で運営する九重ふるさと自然学校は、「人と自然、自然環境と地域社会の共存・共栄を自然から学ぶ」を理念に、地元の方々の指導・協力を得て「くじゅうの自然保護・保全」と「トキのすめる里づくり」の活動をしています。

2010年度は、地元の小中学生を対象とした野鳥観察や生き物観察などのプログラムや、「トキのすめる里づくり」をめざした生き物豊かな田んぼづくりと有機無農薬の稲づくりなどを行いました。



支笏湖周辺台風災害・復興の森づくり

「支笏湖周辺台風災害・復興の森づくり」に対し、2009年5月9日「国民の森林推進功労者」として林野庁長官感謝状が贈られました。復興の森づくりは、北海道森林管理局・石狩森林管理署とセブン-イレブン記念財団が2006年～2008年の3年間「国有林における森林整備等の活動に関する協定」を結び実行委員会を設立し、市民団体や企業・学校等と協働して100haに10万本の植樹をした活動です。2010年度は「NPO法人 支笏湖復興の森づくりの会」を通し、復興の森づくりを支援しました。



三井ガーデンホテルズの環境への取り組み

～清掃等を行わない“地球環境にやさしい”連泊者限定の宿泊プラン～

三井ガーデンホテルチェーン全施設にて 「ECO連泊プラン」8月4日スタート

■三井不動産グループは、全国で展開する三井ガーデンホテルチェーンの全施設にて、「ECO連泊プラン」の販売を平成22年8月4日(水)に開始いたします。

なお、予約受付は7月28日(水)より開始しています。

■「ECO連泊プラン」は、連泊でお泊まりいただく際の客室清掃、ベッドメイクおよびシーツ等のリネン類やアメニティの交換を行わない(※)宿泊プランです。地球環境にもやさしいプランとして、特別価格にてご提供いたします。

※ゴミの回収や灰皿の清掃、タオルの交換については毎日実施いたします。

また、3泊以上のご宿泊の場合は2泊おきに通常清掃を行います。

■上記宿泊プランの他、当ホテルチェーンでは、「ecoガーデンカード」の運用や省エネ型照明の採用、客室内のゴミ分別・リサイクル、フードマイレージを削減する地産地消の料理の提供など、地球環境に配慮した様々な取り組みを行っています。



三井ガーデンホテル銀座プレミア

「ecoガーデンカード」の運用

- ◆平成20年3月より、廃棄物の削減と環境創造(緑の保全)のため、「ecoガーデンカード」を全施設にて運用しています。
- ◆ご宿泊者が客室内のアメニティボックスのグッズを1つもご利用されない場合、「ecoガーデンカード」をフロントにお持ちいただきますと、お客様に代わり、当ホテルチェーンから環境保護団体に寄付いたします。
- ◆当該寄付は、国内の植林および森林整備に活用されており、運用開始以降の累計寄付金額は、1,471,200円です。(平成22年3月末時点)



ecoガーデンカード



アメニティー式

地産地消の料理の提供

- ◆各施設のレストランでは、地元で生産された農産物や水産物を料理に提供する「地産地消」の取り組みを行っています。
- ◆地産地消は、新鮮な地元食材や名産の提供により、伝統的食文化の維持・継承とともに、輸送にかかるエネルギー消費やCO₂排出量削減にもつながるものです。
- ◆三井ガーデンホテル千葉では、千葉県産の野菜や銚子水揚げのさばを使用した料理を提供しているほか、京都四条では、聖護院大根・加茂なす・壬生菜などの京地野菜、岡山では、岡山産の野菜を使用した料理や名物「ままかり」、「きび団子」などを提供しています。また、札幌では、オホーツク産の鮭やイクラ、北海道味噌、ハスカップの「里ジャム」、熊本では、「だご汁」や「辛子蓮根」、「阿蘇田楽」、「阿蘇高菜」等の熊本や阿蘇名物を朝食時にお楽しみいただいています。



三井ガーデンホテル京都四条



三井ガーデンホテル千葉

- 三井ガーデンホテルチェーンは、「環境にやさしいホテル」として、今後も地球環境に配慮した取り組みを積極的に行うとともに、「お客様の五感を満たすホテル」、「記憶に残るホテル」を目指し、国内外のホテル利用者に、ホスピタリティ溢れるサービスの提供に努めてまいります。

*なお、三井ガーデンホテルチェーンは、本年9月14日開業予定の「三井ガーデンホテル上野(客室数245室)」を加えると、チェーン規模は全国17施設4,521室になります。

●お問い合わせ・連絡先

* 三井ガーデンホテルチェーン
ホームページ

<http://www.gardenhotels.co.jp/>



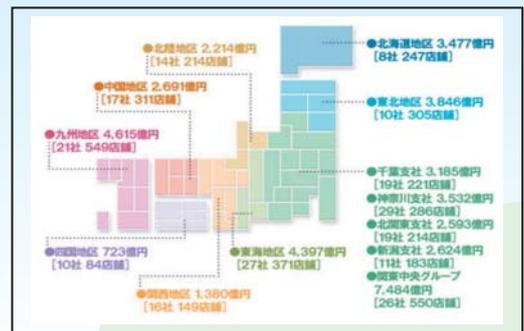
CGCグループの紹介

■CGCグループとは■

- ⇒ 全国の商品スーパーマーケットで組織する協業組織です
- ⇒ 1社ではできないことを協業活動によって実現しています
- ⇒ 2010年8月末時点でグループ規模は 224社 3,672店舗 です



- ⇒ 商品活動を中心に物流、システム、販促、教育、環境対応など様々な分野で協業を展開しています
- ⇒ CGCグループのオリジナル開発商品(ブランド)には次のようなものがあります



CGCグループでは「全国児童画コンクール」(主催=毎日新聞社・毎日小学生新聞、後援=文部科学省)に全国的に協賛しています。毎年、CGCグループの店長さんたちが、地元の幼稚園や小学校を訪問し作品回収まで行います。その数は37万作品にのぼります。来年で開催30周年になります。



■財団法人オイスカ様との関係■

- ⇒ 昨年5月から始まった家電エコポイントの「環境寄附」を本年4月、CGCグループからオイスカ様に贈呈し、フィジー国での環境保全活動や「子供の森」計画に協力しています。



- ⇒ オイスカ様のご協力でCGCグループ各社でも植樹活動を推進しています



オギノの森 (山梨)



北海道CGCの森



財団法人日本森林林業振興会 青森・秋田支部

当会は、保健、休養等のため森林を利用する者に対する便益の増進及び森林林業に関する施策の推進に清洲こと等を目的として、次のような事業を行っております。

①保健・休養等森林を利用する者の安全及び便益の増進並びに愛林思想の普及に関する事業。②森林ボランティア活動、森林づくり活動等の推進に関する事業。③分収造林等による森林の育成整備及び木材等の森林資源の活用に関する事業。

具体的には、平成19年度に設立した「日本森林林業振興会森林づくり事業基金」を活用し①森林整備、②森林ボランティア活動等の実施、協力、支援を積極的に行い地球温暖化防止をはじめとして、水資源の保全森林環境教育などの面で貢献することとしております。

秋田支部においても、秋田県仙北市の秋田森林管理署管内にある国有林の伐採跡地に東北森林管理局と分収造林契約を締結し昨年造林したところであります。また、新たに分収造林契約を行い事業を実施する団体等に対して造林費用の一部を助成することとしております。

分収造林地



伐採跡地



植栽後

また、秋田市内の仁別自然休養林内にある仁別森林博物館で館内の展示品の説明、博物館周辺の森林に生息する動植物の説明のほか森林の役割等について説明し、水資源の保全、森林環境などの啓蒙のボランティア活動を行っている仁別森林博物館案内人会に対する助成や、仁別自然休養林の清掃・整備を含め東北森林管理局管内の国有林をエリアに森林整備等を行っているボランティア団体に対する助成等を行っております。



森林博物館周辺の整備を行いました

これとは別に、森林環境教育の一環として毎年自然観察会を行っております。

また、その都度、一般市民を対象に公募を行い森林浴ツアーや動植物の観察等を行っております。



自然観察会の一コマ



●お問い合わせ・連絡先

〒038-0012 青森市柳川2丁目3-35
財団法人日本森林林業振興会青森支部
TEL 017-766-4977 FAX017-781-1509
E-mail:jff06soumu@center-green.or.jp
〒010-0001 秋田市中通6丁目7-9
財団法人日本森林林業振興会秋田支部
TEL 018-832-4040
FAX 018-835-6837
E-mail:jffakita@center-green.or.jp

日本コカ・コーラの環境への取り組み

コカ・コーラは、全世界で展開している事業指針「Live Positively-世界をプラスにまわそう-」のもと、飲料の製造・販売、社会や環境への取り組む活動を通じて、プラスの循環を生み出すことを目指しています。とくに、地球環境への配慮を実際の行動に移すことの重要性を明確に示しています。

環境への取り組みは、コカ・コーラが社会とともに持続的に成長する上で欠かすことのできないことと捉え、3つの分野-地球温暖化防止、持続可能な容器、水資源保護-に力を入れて、地球環境対策を行っています。

水、エネルギー、廃棄物、容器を主な領域として、製造から物流、販売、オフィスに至るまで、全事業プロセスにおいて環境負荷を低減し、限りある資源の有効活用に努めています。あわせて、地域社会の一員として、全国各地で次世代の育成と環境問題への貢献を柱とする社会貢献プログラムを展開しています。

環境省・林野庁の後援のもと2006年にスタートした環境教育プログラムコカ・コーラ「森に学ぼう」プロジェクトは、次世代を担う全国の子どもた

ちに地球環境について考えるきっかけを提供しています。このプロジェクトはコカ・コーラが世界規模で取り組む水資源保護活動の一環としても位置づけており、大切な資源である水とその水を育む森林、そして自然保護の大切さを子どもたちに理解してもらおうことを目指しています。

各地での活動イベントの実施だけではなく、森や自然について楽しみながらわかりやすく学べるような専用ウェブサイトも開設しており、ウェブサイト上で森や自然に関する簡単なテストに合格すると「森の博士」として認定証が発行される仕組みも提供し、現在まで、3万人以上の「森の博士」が全国で誕生しています。

企業としての環境負荷低減への取り組みについては、「企業がみずから取り組むべきこと」と、ステークホルダーと「いっしょにできる取り組み」の両面で実施しています。たとえば、軽量化PETボトルや植物由来の素材を配合したPETボトルなどの導入と並行して、日々の生活を通してお客様の製品選択が、リサイクルなどの環境負荷を低減するエコアクションにつながるよう、各種コミュニケーション施策を通じて空容器回収・リサイクルを促進しています。



01

02

Title

協賛企業広告

03

04

05

06

07

08

 本サミットの開催に協賛をいただいた企業等の皆様 

 **セブン-イレブンみどりの基金**

一般財団法人 **セブン-イレブン記念財団**


mitsui garden
hotels

 **三菱UFJニコス**
MUFG


CGC

森林づくりの事業・活動等に対して協力・支援を行っています
財団法人 **日本森林林業振興会**
青森支部・秋田支部


Coca-Cola


放課後ひろば
夢のびのびと、伸ばしてあげたい。
 **東北電力 秋田支店**

本報告書に関するお問い合わせ先

東北森林管理局
計画部指導普及課

〒010-8550 秋田市中通五丁目9番16号 TEL.018-836-2214・2211

FAX.018-836-2012 <e-mail>t_shidou@rinya.maff.go.jp
<http://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/>



協賛

セブン-イレブン記念財団

三井ガーデンホテルズ

三菱UFJニコス

CGCジャパン

財団法人日本森林業振興会 青森・秋田支部

日本コカ・コーラ

東北電力株式会社秋田支店



協力

社団法人 国土緑化推進機構

 主催/「学校林・遊々の森」全国子どもサミットin東北実行委員会

 構成/林野庁、東北森林管理局、(財)オイスカ、(社)全国森林レクリエーション協会秋田支部、
(社)秋田県緑化推進委員会、秋田県森林インストラクター会、秋田県森の案内人協議会

 後援/文部科学省、青森県、秋田県、山形県、岩手県、宮城県、青森県教育委員会、秋田県教育委員会、山形県教育委員会、岩手県教育委員会、宮城県教育委員会、八幡町、八幡町教育委員会、環境省東北地方環境事務所、美しい森林づくり全国推進会議、日本教育新聞社、教育新聞社、教育家庭新聞社、秋田魁新報社、NHK秋田放送局、ABS秋田放送、AKT秋田テレビ、AAB秋田朝日放送、北羽新報社



協 賛

セブン-イレブン記念財団

三井ガーデンホテルズ

三菱UFJニコス

CGCジャパン

財団法人日本森林業振興会 青森・秋田支部

日本コカ・コーラ

東北電力株式会社秋田支店



協 力

社団法人 国土緑化推進機構



主催/「学校林・遊々の森」全国子どもサミットin東北実行委員会



構成/林野庁、東北森林管理局、(財)オイスカ、(社)全国森林レクリエーション協会秋田支部、
(社)秋田県緑化推進委員会、秋田県森林インストラクター会、秋田県森の案内人協議会



後援/文部科学省、青森県、秋田県、山形県、岩手県、宮城県、青森県教育委員会、秋田県教育委員会、山形県教育委員会、岩手県教育委員会、宮城県教育委員会、八幡町、八幡町教育委員会、環境省東北地方環境事務所、美しい森林づくり全国推進会議、日本教育新聞社、教育新聞社、教育家庭新聞社、秋田魁新報社、NHK秋田放送局、ABS秋田放送、AKT秋田テレビ、AAB秋田朝日放送、北羽新報社